

## キク直挿し栽培における挿し穂の大きさ、発根剤処理と発根

出口 浩 (長崎県総合農林試験場)

Hiroshi DEGUCHI: Effect of the size of cutting and phytohormone on rooting in directly cutting cultured *chrysanthemum*

秋ギク‘秀芳の力’は、直挿し栽培において発根が悪く、生育も不揃いとなりやすい。一方、直挿し栽培では、挿し穂の吸水状態がよいほど発根を促進することが経験上知られている。そこで、挿し穂の吸水力向上に着眼した迅速かつ均一な発根を得るための挿し穂の調整方法、挿し芽方法および発根剤処理の効果について検討した。

## 1. 材料および方法

試験1: 品種は‘秀芳の力’を供試した。挿し穂の調整および挿し芽方法は、①慣行挿し芽 (慣行区): 長さ5~6cmの挿し穂を、下葉を1~2枚除去し、その除去した部分を2~3cm挿す、②小型埋め込み (改善区): 生長点から3cmまでを折りとり、葉をつけたまま3cm埋め込み方法の2試験区とした。1997年7月16日に挿し芽し、直ちに有孔ポリをべたがけにした。7月22日に最大根長、発根数を調査した。

試験2: 品種は‘秀芳の力’を供試した。発根剤処理は、小型挿し穂を用いて水揚げし、直挿し直前にオキシベロン液剤200倍液に10秒間浸漬した。対照区として水揚げのみの無処理区を設けた。1997年8月27日直挿し、9月3日に発根調査を行った。10月20日に消灯した。

## 2. 結果および考察

試験1: 最大根長は小型挿し穂を埋め込むことによりやや長くなる傾向があり、発根数は逆に少なくなる傾向があったが(第1表)、総合的には慣行区と同等の発根が得られた。また、両区ともべたがけ期間中に生長点は生長を開始した。

慣行区では、挿し穂は土に挿した茎およびべたがけ資材と接触した葉の2つの吸水ポイントしかないのに対して、改善区では、さらに土に埋めた葉からの吸水が追加されて吸水力が向上すること、生長点により近い若い部分から発根させるという2点が発根を促進したため、挿し穂を小さく調整しても同等の発根が得られたものと考えられる。

試験2: 発根剤処理によって、最大根長は長くなり、発根数も多くなった(第2表)。無処理では、調査データ(最大根長、発根数)上は発根剤処理に劣ったが、根が太く、力強さを感じられた。べたがけ除去後の生育は消灯時、開花時ともに差は見られなかった(第3表)。

以上の結果、挿し穂を3cmの長さで採穂し、下葉ごと生長点まで埋め込んで直挿しを行っても慣行区と同等の発根が得られることが明らかとなり、①挿し穂自体を小型化したことにより親株栽培においては摘心から採穂までの日数が短縮できるだけでなく、②挿し穂の冷蔵庫

入庫本数が増大する、③下葉よりの挿し穂調整作業が省略できる、④早期活着により生育促進が可能となるなど、極めて普及性が高く、キク栽培の省力化に大きく寄与することができる。また、挿し穂への発根剤処理は、発根自体は促進されるものの、その後の管理作業、生育、開花には影響せず、発根剤処理の必要性はないと考えられる。

第1表 挿し穂の大きさと発根状況

処理区	最大根長	発根数
慣行挿し芽	0.5cm	28.0本
小型埋め込み	0.6	22.4

第2表 発根剤処理と発根状況

処理区	最大根長	発根数
オキシベロン	2.0cm	29本
無処理	1.6	17

第3表 発根剤処理と生育・開花特性

処理区	消灯時 (10/20)		採花日	草丈	葉数	切花重
	草丈	葉数				
オキシベロン	55.7cm	26.9枚	12/14~18	101.3cm	47.5枚	77.3g
無処理	57.2	28.0	12/14~18	101.1	48.2	78.8